

## 岳南電車財政計画(第4クール)及び第四次行動計画の見直しについて

### 岳南電車財政計画（第4クール）の見直しについて

#### ① 公的支援の経緯

- 1 岳南電車の概要
- 2 利用者数と収支状況の推移
- 3 第3クールまでの公的支援

#### ② 第4クール（令和5年度～令和9年度）の公的支援

- 1 公的支援の内容
- 2 補助金額の算出方法

#### ③ 「岳南電車財政計画（第4クール）」の見直し

- 1 財政計画見直しの背景
- 2 見直し内容

<参考> 第4クールの市の取組

### 岳南電車第四次行動計画の見直しについて

# 1 公的支援の経緯

## 1 岳南電車の概要

岳南電車は、市内東部の9.2キロメートル・計10駅を結ぶ地方鉄道であり、昭和24年の鉄道事業開業以来、70年以上にわたって市民の「くらしの足」として、また、工業製品や原材料等の輸送路として、地域に根ざし、本市の発展の一翼を担ってきた。

近年では、夜景電車等の企画や地域との協働によるイベント開催等、特色のある取り組みを行っているほか、平成26年に夜景電車が日本夜景遺産に指定、令和3年6月に本吉原駅（プラットフォーム・上屋）が国の登録有形文化財に指定、また令和4年11月には「富士市シティプロモーション大使」に任命されるなど、富士市のシティプロモーションや観光面においても大きな役割を果たしている。

### 【路線図】



### 【車両】



## 2 利用者数と収支状況の推移

岳南電車の平成 23 年度以降の利用状況を以下に示す。

平成 30 年度までは増加傾向となっていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度及び令和 2 年度は大きく減少した。

その後は、緩やかな回復傾向となっているが、新型コロナウイルス感染症が「5 類感染症」に移行した令和 5 年度においても、コロナ前の水準までの回復には至っていない状況となっている。

### 【平成 23 年度以降の利用者数の推移】

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
定期外(人)	416,665	435,252	436,448	448,595	470,725	494,424	477,301	485,181	479,639	314,114	346,549	379,543	384,685
定期(人)	326,580	326,880	336,540	300,660	335,340	342,060	385,140	381,060	335,190	313,780	346,560	337,680	355,920
利用者数(人)	743,245	762,132	772,988	749,255	806,065	836,484	862,441	866,241	814,829	627,894	693,109	717,223	740,605
増減率(%)	102.5	102.5	101.4	96.9	107.6	103.8	103.1	100.4	94.1	77.1	110.4	103.5	103.3

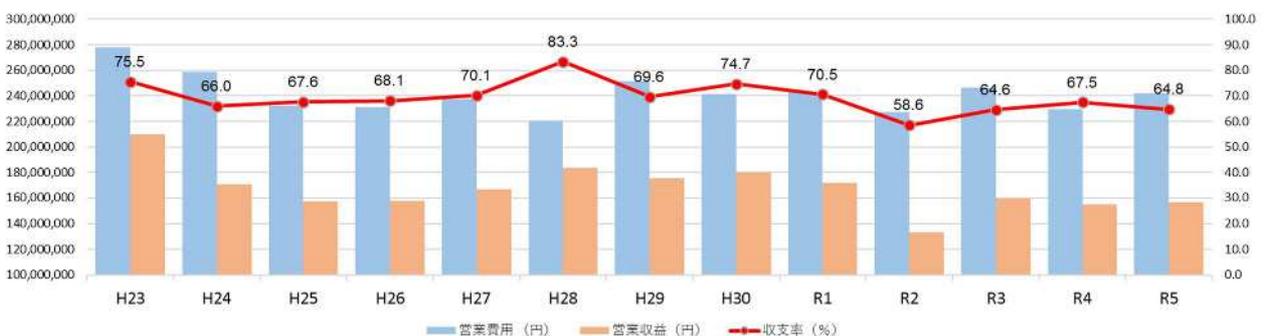


営業収益、営業費用の差引である営業利益は、毎年赤字であるが、平成 28 年度、平成 30 年度は当時の支援額である 6,200 万円を下回った。

しかし、令和元年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、収支率は悪化傾向にある。

### 【平成 23 年度以降の収支率の推移】

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
営業費用(円)	277,965,280	258,681,909	232,541,368	231,322,421	237,441,559	220,335,738	251,499,424	241,067,660	243,126,229	227,440,210	246,599,335	229,675,440	241,594,190
定期外(円)	81,830,562	86,210,734	86,617,527	89,817,085	96,016,276	100,494,830	95,919,391	98,768,857	95,754,379	63,645,532	71,872,901	79,655,169	83,605,693
定期(円)	40,894,344	40,943,315	41,763,752	37,820,076	41,766,535	41,947,171	47,835,127	47,190,656	42,663,904	40,820,292	43,638,986	42,686,365	46,418,433
運賃収入(円)	122,724,906	127,154,049	128,381,279	127,637,161	137,782,811	142,442,001	143,754,518	145,959,513	138,418,283	104,465,824	115,511,887	122,341,534	130,024,126
運輸雑入(円)	87,045,285	43,556,095	28,921,883	29,912,452	28,710,681	41,132,279	31,350,726	34,059,471	33,077,219	28,789,187	43,795,157	32,650,566	26,419,502
営業収益(円)	209,770,191	170,710,144	157,303,162	157,549,613	166,493,492	183,574,280	175,105,244	180,018,984	171,495,502	133,255,011	159,307,044	154,992,100	156,443,628
営業利益(円)	-68,195,089	-87,971,765	-75,238,206	-73,772,808	-70,948,067	-36,761,458	-76,394,180	-61,048,676	-71,630,727	-94,185,199	-87,292,291	-74,683,340	-85,150,562
収支率(%)	75.5	66.0	67.6	68.1	70.1	83.3	69.6	74.7	70.5	58.6	64.6	67.5	64.8



### 3 第3クールまでの公的支援

岳南電車に対しては、平成16年度から貨物輸送の低迷を理由に、1年あたり1,000万円の公的支援を行ってきた。(平成23年度は、2,000万円)

貨物輸送が廃止となった平成24年度以降令和4年度までは、廃線の可能性が高まったこと等から以下の基本的な考え方などに基づき公的支援を続けてきた。

#### ● 基本的な考え方

岳南電車は、本市において必要な社会基盤であるため、事業者の自助努力と行政の適切な関与を前提に、市民、事業者、行政が一体となって支えていく。

#### ● 基本原則

- 1 安全かつ安定的な運行がされること。
- 2 サービスの向上や効率性などが引き続き確保されること。
- 3 適切な関与（社会的便益の対価）であること。

#### 第1クール

- 1 補助期間 平成24年度～平成26年度（3年間）
- 2 補助金額 1年あたり、6,500万円

#### 第2クール

- 1 補助期間 平成27年度～平成29年度（3年間）
- 2 補助金額 1年あたり、6,200万円
  - ただし、別に毎年「シティプロモーション推進事業業務委託」として、300万円を支出

#### 第3クール

- 1 補助期間 平成30年度～令和4年度（5年間）
- 2 補助金額 1年あたり、6,200万円
  - ただし、別に毎年「シティプロモーション推進事業業務委託」として、300万円を支出
  - 別に「地方鉄道事業運行継続臨時支援補助金」として、令和3年度に2,182万円、令和4年度に1,569万円を追加支援

## 2 第4クール(令和5年度～令和9年度)の公的支援

### 1 公的支援の内容

岳南電車に対する公的支援については、①社会的便益、②利用者数・収支実績、③行動計画の履行状況、④地域と一体となった取組と本市の公共交通ネットワークにおける岳南電車の位置付けを検証した結果、今後も市民の「暮らしの足」として不可欠な交通手段であることから、一定の条件を付与し、令和5年度以降も公的支援を継続することとなった。

#### ～ 公的支援の継続にあたっての条件 ～

- 1 これまで以上の自助努力を行い、利用促進策による増収を図ること。
- 2 市民、事業者、岳南電車、行政のオール富士市で岳南電車の活性化に向けた取組を継続すること。
- 3 岳南電車は、鉄道事業の「経営改善」や「地域共生型の交通サービス」の提供に向けた行動計画を策定し、確実に履行すること。

### 第4クールの公的支援に係る検討の経緯

➤ 令和3年 9月24日 岳南電車が富士市に「公的支援の継続」について要望書を提出

#### 富士市公共交通協議会に地方鉄道分科会を設置し、専門的な調査や審議を実施

- 令和3年 11月19日 第1回地方鉄道分科会  
これまでの公的支援の内容と効果を検証
- 令和3年 12月17日 第2回地方鉄道分科会  
公共交通としての岳南電車のあり方について検討
- 令和4年 1月31日 富士市公共交通協議会  
協議会としての意見をとりまとめ
- 令和4年 3月29日 富士市議会全員協議会  
公的支援の方向性について報告
- 令和4年 8月2日 富士市公共交通協議会  
公的支援の内容について協議
- 令和4年 9月1日 富士市議会全員協議会  
公的支援の内容について報告
- 令和5年 1月26日 富士市公共交通協議会  
第四次行動計画について協議



岳南電車からの要望書

**令和5年度以降も公的支援を継続することが決定**

## 産業界・各種団体・市民から寄せられた声

### 1 富士商工会議所（令和3年10月22日）

…産業界といたしましても岳南鉄道線は当地域の将来にとって不可欠な交通軸であり、観光・シティプロモーションの視点からも本市の貴重な観光資源でありますので、令和5年度以降も継続した公的支援をお願いしたいと存じます。



### 2 まちの駅ネットワーク（令和3年11月10日）

### 3 市民10団体（ " " ）

- ・富士つけナポリタン大志館
- ・本吉原駅劇場実行委員会
- ・923ネットワーク
- ・フジパク富士さん博覧会
- ・オール富士さん！
- ・富士市民岳鉄イカシ隊
- ・フジレールクラブ
- ・まちづくりプロジェクト see-through
- ・紙っと！プロジェクト
- ・吉原マネジメントオフィス(株)

…公共交通ネットワークを構成する岳南鉄道線が、将来にわたり安定的に継続運行・活用されていくためについて以下のことを要望します。

- (1)市全体の今後の公共交通体系の中での岳南鉄道線の重要性を周知していく。
- (2)富士市を訪れる方々に加え、地域住民の暮らしの足、市民生活に支障のないよう、岳南鉄道線の旅客運行に対し、令和5年度以降の公的支援など必要な範囲での予算措置。



### 4 岳南電車サポーターズクラブ（令和3年11月24日）

…剥がしたレールは二度と戻りません。全国的にも価値が認められ始めているこの岳南鉄道線が市民の足、来市する方々の足、文化遺産として次世代へも活かし残せるよう、何卒お願い申し上げます。

### 5 富士市町内会連合会（令和3年11月25日）

…本市のまちづくりにおいては、地域づくりの担い手不足という課題に直面していますが、関係人口の増加により、地域内だけでなく地域外の人材が地域づくりの担い手として活躍することも期待されており、岳南鉄道線は、地域の活性化にも寄与するものと考えております。

つきましては、地域住民、民間企業、行政による協働のまちづくりを進め、岳南電車株式会社に対する公的支援を図ることにより、岳南鉄道線の存続と共に地域の持続可能な発展を併せて実現していただきますよう要望いたします。

### 6 吉原商店街振興組合・タウンマネジメント吉原（令和3年12月16日）

…昨今の新型コロナウイルス感染拡大により、人流の抑制に伴う経済環境の停滞により、地域商業はもとより様々な業界が打撃を受け、極めて厳しい状況が続いておりますが、吉原地域の商業・商店街振興、まちづくり振興からも、岳南鉄道線は当地域の将来にとって不可欠な交通軸であると考えます。つきましては、本趣旨をご理解いただき、令和5年度以降も継続した公的支援を図られますよう要望いたします。

## 2 補助金額の算出方法

### 第1～第3クールは…

- …岳南電車が存在することによる社会的便益（効果）として、所要時間短縮・費用低減・道路交  
通事故削減の3つの便益を補助金額として算出してきた。
- …この手法は、利用人数が少ないと社会的便益が少なくなることから、コロナ禍において、より  
経営状況が深刻となるにも関わらず、社会的便益が減少することとなった。
- …市が算出していた社会的便益には、近年、その価値が評価されている環境や観光に関する便益  
等が含まれていない。

### 第4クール(令和5年度)以降は…

- 補助金額は、令和5年度以降の財政計画を基に算出する。
- 岳南電車の自助努力を促すため、新たに自助努力分<sup>※1</sup>という概念を導入し、各年度の欠損見  
込額から、自助努力分（9%）を除いた金額を補助金額の上限とする。
- 補助金を交付する各年度末に精算する<sup>※2</sup>。
- これまで補助金額の根拠としていた社会的便益は、新たに環境や観光に関する便益を加え、  
補助金額が社会的便益を上回っていないことを確認する。

#### ※1 自助努力分

- 欠損額全額を補助対象とすると、岳南電車の自助努力の意欲を削ぐ可能性が考えられる。そうし  
た意欲の減退を防止し、自助努力を促すために設定する数値である。
- 欠損額に占める内部補助分を「補助金が無くても事業者の努力で賄うことが可能なもの＝自助努  
力分」とみなす。

#### 【実績】

(千円)

項目	H30	R1	R2	R3	合計
営業収益	180,019	173,495	133,255	159,307	646,076
営業費用	241,068	243,126	227,440	246,599	958,233
欠損額	61,049	69,631	94,185	87,292	312,157
補助金額	62,000	62,000	* 83,824	* 77,689	285,513
自助努力分 (%) = (1 - 補助金額 / 欠損額) × 100					9%

\*R2、R3の補助金額には、従来の62,000千円に加えて、臨時支援金（R2：21,824千円、  
R3：15,689千円）を含む。

\*臨時支援金は、R3、R4の交付だが、前年度の実績に基づくため、便宜上、R2、R3の補  
助金額に含める。

#### 【計算式（4ヶ年合計）】

1 - 285,513千円（補助金額） ÷ 312,157千円（欠損額） = 9%

➡自助努力分を9%と設定する。

#### ※2 精算時における確認事項

- 社会的便益が補助金額を上回っていること。
- 実績によって欠損額が補助金額を下回る場合は、各年度末に精算するものとする。

岳南電車は、財政計画に沿って施設や車両の整備を実施するが、従来のように補助金額を定額とすると、各年度の収支に対応した支援が行われないことから、岳南電車に対し、より実態に沿った支援を行うことができるようにするため、補助金額は、定額制ではなく、「各年度の財政計画に即した従量制」とした。

## 当 初 計 画

### 【利用者数】

(人)

項目	第3クール					第4クール				
	H30 (実績)	R1 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (目標)	R6 (目標)	R7 (目標)	R8 (目標)	R9 (目標)
利用者数	866,241	814,829	627,894	693,109	717,223	711,165	721,810	733,464	744,730	756,438

### (内訳)

(人)

項目	第3クール					第4クール				
	H30 (実績)	R1 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5	R6	R7	R8	R9
定期	381,060	335,190	313,780	346,560	337,680	350,919	350,760	351,287	351,089	350,990
(通勤)	272,340	223,170	236,200	259,380	257,820	249,275	249,275	250,000	250,000	250,000
(通学)	108,720	112,020	77,580	87,180	79,860	101,644	101,485	101,287	101,089	100,990
定期外	485,181	479,639	314,114	346,549	379,543	360,246	371,050	382,177	393,641	405,448

### 【財政計画】

(千円)

項目	第3クール					第4クール				
	H30 (実績)	R1 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5	R6	R7	R8	R9
営業収益	180,019	173,495	133,255	159,307	154,992	145,336	147,623	150,112	152,569	155,106
営業費用	241,068	243,126	227,440	246,599	229,675	232,014	238,833	246,941	222,777	227,671
欠損額	61,049	69,631	94,185	87,292	74,683	86,678	91,210	96,829	70,208	72,565

### 【補助金額】

(千円)

項目	第3クール					第4クール				
	H30 (実績)	R1 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5	R6	R7	R8	R9
補助金額	62,000	62,000	62,000	62,000	62,000	78,800	83,000	88,100	63,800	66,000
臨時支援	-	-	-	21,824	15,689	-	-	-	-	-

□ 第4クール総額：379,700千円 (第3クール：347,513千円 ※臨時支援含む)

□ 第4クール平均：75,940千円 (第3クール：69,503千円 ※臨時支援含む)

### 3 「岳南電車財政計画(第4クール)」の見直し

#### 1 財政計画見直しの背景

財政計画は、アフターコロナにおける利用者数の回復状況や、物価・人件費の高騰などを考慮し、令和7年度から令和9年度における3か年について見直しを行う。

#### 財政計画見直しに係る社会的要因

- ✓ 新型コロナウイルス感染症の第5類への移行に伴う利用者数の回復
  - ✓ 物価や人件費の高騰とそれに伴う車検及び車両更新に係る費用の増加
  - ✓ 電力料金の値上げ
- etc…

#### 2 見直し内容

見直しにあたっては、令和7年度から令和9年度の補助金合計額を上回らないことを条件に、利用者数の回復状況を踏まえた営業収益の増額や、安全・安心な運行のための車検や車両更新に係る費用などの営業費用の増額を行う。

#### 【利用者数】

(人)

項目	第4クール					合計
	R5	R6	R7	R8	R9	
当初計画	711,165	721,810	733,464	744,730	756,438	3,667,607
見直し後	740,605 (実績)	721,810	770,352	784,561	800,060	3,817,388
増減	+29,440	±0	+36,888	+39,831	+43,622	+149,781

- ・ 令和5年度の利用者数の回復状況を考慮し、令和7年度から令和9年度の利用者数を上方修正する。

#### 【財政計画】

(千円)

項目	項目	第4クール					合計
		R5	R6	R7	R8	R9	
当初計画	営業収益	145,336	147,623	150,112	152,569	155,106	750,746
	営業費用	232,014	238,833	246,941	222,777	227,671	1,168,236
	欠損額	86,678	91,210	96,829	70,208	72,565	417,490
見直し後	営業収益	156,443	147,623	160,030	163,334	167,157	794,587
	営業費用	241,594	238,833	239,651	237,462	252,863	1,210,403
	欠損額	85,151	91,210	79,621	74,128	85,706	415,816

- ・ 利用者数の回復状況を踏まえた営業収益を増額するとともに、物価や人件費の高騰に伴う日常の点検・修繕や車検に係る営業費用を増額する。

詳細は次ページ以降を参照

#### 【補助金額】

(千円)

項目	第4クール					合計
	R5	R6	R7	R8	R9	
当初計画	78,800	83,000	88,100	63,800	66,000	379,700
			217,900			
見直し後	77,486 (実績)	83,000	72,454	67,455	77,991	378,386
			217,900			

- ・ 令和7年度から令和9年度の3か年の補助金合計額については、当初計画の範囲内とする。
- ・ 令和6年度については、収支決算に基づき、年度末に精算するものとする。

岳南電車への運営費補助金について、第4クールにおいては、「各年度の財政計画に即した従量制」としていることから、見直した財政計画に基づき算出した補助金額に変更する。

## 財政計画の詳細

### ■ 営業収益

No.	費目	概要	全体計画
1	旅客運輸収入	旅客運送による運賃・料金	611,706,000 656,183,611
2	運輸雑収入	旅客運輸収入、貨物運輸収入、鉄道線路使用料収入及び鉄道線路譲渡収入以外の収入	139,040,000 138,405,987
計 (A)			750,746,000 794,589,598

### □ 営業費用

No.	費目	概要	全体計画
1	線路保存費	有形固定資産運送施設中、電路、車両及び自動出改札装置等の営業用機械装置を除いた一切の固定資産の維持補修に要する作業費	90,000,000 92,269,137
2	電路保存費	有形固定資産運送施設中、電路、変電所機械、通信機械及び電路保存用特殊車両の維持補修に要する作業費	102,000,000 89,513,472
3	車両保存費	有形固定資産運送施設中、車両（線路保存用特殊車両及び電路保存用特殊車両を除く。）の維持補修に要する作業費	118,000,000 145,680,370
4	運転費	列車の運転に要する作業費	233,500,000 259,768,489
5	運輸費	旅客及び貨物の取扱い並びに列車の組成及び車両の入換えに要する作業費	190,000,000 197,128,764
6	保守管理費	有形固定資産運送施設の保守の作業管理に要する費用	113,000,000 110,689,868
7	輸送管理費	運転及び運輸の作業管理に要する費用	52,500,000 54,520,997
8	案内宣伝費	自線への旅客誘致に関する企画、広告宣伝に要する費用	24,000,000 27,586,745
9	諸税	地方税法に基づく税金など	44,750,000 45,317,400
10	減価償却費	鉄道事業固定資産に係る減価償却費及び各事業関連固定資産に係る減価償却費の鉄道事業負担分	135,686,000 125,119,840
11	一般管理費	鉄道事業の運営全般に関連する総括的業務に係る費用	64,800,000 62,808,108
計 (B)			1,168,236,000 1,210,403,190
営業損益 (C) = (A) - (B)			-417,490,000 -415,813,592
運営費補助金額			379,700,000 378,386,000
増 減			-1,314,000

※青字は実績値

※R6 変更なし

上段:当初計画 下段:見直し

■ :増額

■ :減額

R5	R6	R7	R8	R9
117,796,000	119,973,000	122,312,000	124,619,000	127,006,000
130,024,641	119,973,000	132,150,590	135,384,675	138,650,705
27,540,000	27,650,000	27,800,000	27,950,000	28,100,000
26,418,987	27,650,000	27,880,000	27,950,000	28,507,000
145,336,000	147,623,000	150,112,000	152,569,000	155,106,000
156,443,628	147,623,000	160,030,590	163,334,675	167,157,705

単位:円

R5	R6	R7	R8	R9
18,000,000	18,000,000	18,000,000	18,000,000	18,000,000
17,504,137	18,000,000	20,765,000	18,000,000	18,000,000
21,000,000	21,000,000	23,000,000	19,000,000	18,000,000
12,513,472	21,000,000	19,000,000	19,000,000	18,000,000
25,000,000	31,000,000	37,000,000	12,500,000	12,500,000
28,800,870	31,000,000	25,111,000	23,647,000	37,121,500
47,000,000	47,000,000	46,500,000	46,500,000	46,500,000
52,593,489	47,000,000	55,475,000	54,725,000	49,975,000
38,000,000	38,000,000	38,000,000	38,000,000	38,000,000
45,128,764	38,000,000	38,000,000	38,000,000	38,000,000
22,500,000	22,500,000	22,500,000	22,500,000	23,000,000
22,039,868	22,500,000	22,050,000	22,050,000	22,050,000
10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000
12,520,997	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000
4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000
8,386,745	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000
8,700,000	8,850,000	8,950,000	9,100,000	9,150,000
9,267,400	8,850,000	8,950,000	9,100,000	9,150,000
23,614,000	24,283,000	24,691,000	28,877,000	34,221,000
21,430,340	24,283,000	22,000,000	24,640,000	32,766,500
12,900,000	12,900,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000
11,408,108	12,900,000	13,000,000	13,000,000	12,500,000
232,014,000	238,833,000	246,941,000	222,777,000	227,671,000
241,594,190	238,833,000	239,651,000	237,462,000	252,863,000
-86,678,000	-91,210,000	-96,829,000	-70,208,000	-72,565,000
-85,150,562	-91,210,000	-79,620,410	-74,127,325	-85,705,295
78,800,000	83,000,000	88,100,000	63,800,000	66,000,000
77,486,000	83,000,000	72,454,000	67,455,000	77,991,000
-1,314,000	±0	-15,646,000	+3,655,000	+11,991,000

## 令和7年度の見直し内容

### □ 営業費用

単位：円

No.	費目	当初計画 A	見直し B	差引き B-A
1	線路保存費	18,000,000	20,765,000	+2,765,000
2	電路保存費	23,000,000	19,000,000	-4,000,000
3	車両保存費	37,000,000	25,111,000	-11,889,000
4	運転費	46,500,000	55,475,000	+8,975,000
5	運輸費	38,000,000	38,000,000	0
6	保守管理費	22,500,000	22,050,000	-450,000
7	輸送管理費	10,500,000	10,500,000	0
8	案内宣伝費	4,800,000	4,800,000	0
9	諸税	8,950,000	8,950,000	0
10	減価償却費	24,691,000	22,000,000	-2,691,000
11	一般管理費	13,000,000	13,000,000	0
	計	246,941,000	239,651,000	-7,290,000

欠損額	96,829,000	79,620,410	-17,208,590
運営費補助金	88,100,000	72,454,000	-15,646,000

### ～ 変更の主な要因 ～

#### 線路保存費： +2,765 千円

▶▶▶ 増額

次年度以降の車両更新に向けて、車長が 20m の車両を入線可能とするため、駅ホームの切削工事のための測量費を計上する。

#### 電路保存費： -4,000 千円

▶▶▶ 減額

令和7年度に計画していた使用済変圧器の処分を令和6年度に前倒しで実施する。

#### 車両保存費： -11,889 千円

▶▶▶ 減額

7003号車の車検については、令和9年度の車両更新を見越して必要最小限の整備とする。

#### 運転費： +8,975 千円

▶▶▶ 増額

近年における電力料金の高騰により増額する。

#### 減価償却費： -2,691 千円

▶▶▶ 減額

駅舎（岳南富士岡駅）のトイレ改修計画を先送りとする。

営業費用については、令和9年度に更新予定の7003号車の車検における整備内容を見直したこと、駅舎のトイレ改修計画を先送りとしたこと等により、**729万円の減額**となる。

⇒令和7年度の欠損額が、約1,721万円縮小することから  
運営費補助金は72,454,000円となる。

## 令和8年度の見直し内容

### □ 営業費用

単位：円

No.	費目	当初計画 A	見直し B	差引き B-A
1	線路保存費	18,000,000	18,000,000	0
2	電路保存費	19,000,000	19,000,000	0
3	車両保存費	12,500,000	23,647,000	+11,147,000
4	運転費	46,500,000	54,725,000	+8,225,000
5	運輸費	38,000,000	38,000,000	0
6	保守管理費	22,500,000	22,050,000	-450,000
7	輸送管理費	10,500,000	10,500,000	0
8	案内宣伝費	4,800,000	4,800,000	0
9	諸税	9,100,000	9,100,000	0
10	減価償却費	28,877,000	24,640,000	-4,237,000
11	一般管理費	13,000,000	13,000,000	0
計		222,777,000	237,462,000	14,685,000

欠損額	70,208,000	74,127,325	+3,919,325
運営費補助金	63,800,000	67,455,000	+3,655,000

### ～ 変更の主な要因 ～

#### 車両保存費：+11,147 千円

▶▶▶ 増額

昨今の物価や人件費の高騰により、日常の点検・修繕に係る費用や 7001 号車（1 両編成）の車検に係る費用を増額する。

#### 運転費：+8,225 千円

▶▶▶ 増額

近年における電力料金の高騰により増額する。

#### 減価償却費：-4,237 千円

▶▶▶ 減額

8000 形代替車両の納車が、令和 8 年 4 月から令和 9 年 2 月に変更となることにより減額する。

営業費用については、昨今の物価や人件費の高騰による日常の点検・修繕に係る費用や 7001 号車の車検費用等の増加により、約 1,469 万円の増額となる。

⇒令和 8 年度の欠損額が、約 392 万円拡大することから、  
運営費補助金は 67,455,000 円となる。

## 令和9年度の見直し内容

### □ 営業費用

単位：円

No.	費目	当初計画 A	見直し B	差引き B-A
1	線路保存費	18,000,000	18,000,000	0
2	電路保存費	18,000,000	18,000,000	0
3	車両保存費	12,500,000	37,121,500	+24,621,500
4	運転費	46,500,000	49,975,000	+3,475,000
5	運輸費	38,000,000	38,000,000	0
6	保守管理費	23,000,000	22,050,000	-950,000
7	輸送管理費	10,500,000	10,500,000	0
8	案内宣伝費	4,800,000	4,800,000	0
9	諸税	9,150,000	9,150,000	0
10	減価償却費	34,221,000	32,766,500	-1,454,500
11	一般管理費	13,000,000	12,500,000	-500,000
	計	227,671,000	252,863,000	+25,192,000

欠損額	72,565,000	85,705,295	+13,140,295
運営費補助金	66,000,000	77,991,000	+11,991,000

### ～ 変更の主な要因 ～

#### 車両保存費：+24,622 千円

▶▶▶ 増額

昨今の物価や人件費の高騰により、日常の点検・修繕に係る費用や費用が最も高額となる 9000 形（2 両編成）の車検に係る費用を増額する。

#### 運転費：+3,475 千円

▶▶▶ 増額

近年における電力料金の高騰により増額する。

#### 保守管理費：-950 千円

▶▶▶ 減額

備用品費や光熱水道費等の削減、保険契約内容の見直しにより減額する。

#### 減価償却費：-1,455 千円

▶▶▶ 減額

7003 号車の代替車両の納車が、令和 9 年 4 月から令和 10 年 2 月に変更となることにより減額する。

営業費用については、昨今の物価や人件費の高騰による日常の点検・修繕に係る費用や、9000 形の車検費用等の増加により、**約 2,519 万円の増額**となる。

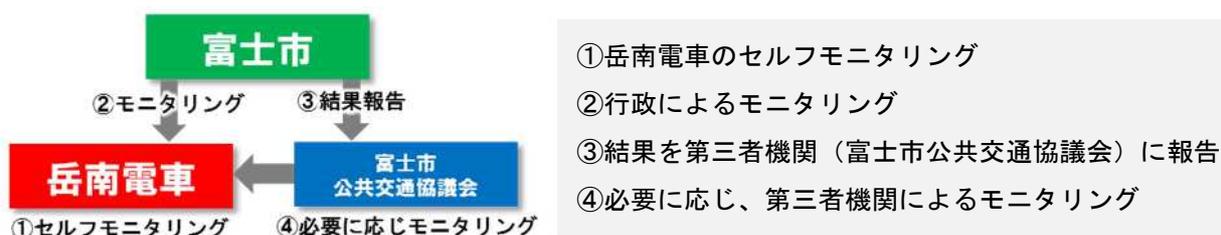
⇒令和 9 年度の欠損額が、約 1,314 万円拡大することから、  
運営費補助金は 77,991,000 円となる。

## <参考> 第4クール市の取組

市は、公的支援の継続にあたり、行動計画の履行確認において新たにモニタリング制度を導入することに加え、庁内横断的な岳南電車への支援に取り組んでいる。

### 「岳南電車行動計画」の履行確認におけるモニタリング制度の導入

第3次岳南電車行動計画では、目標達成に対する具体的な目標数値が設定されていなかったことから、第4次岳南電車行動計画においては、行動計画に数値目標を設定し、行動計画及び財政計画の進捗状況の確認を行い、確実な計画履行を目指すこととしている。



### 【岳南電車第四次（R5～R9）行動計画における5つの目標】

- 目標1 市民の足としての利用促進施策の継続（日常の利用拡大に向けた利用促進策等）
- 目標2 観光利用施策による地域社会との共存共栄（誘致活動の強化・案内充実等）
- 目標3 安全第一の経営方針と経営努力の継続（安全管理体制の維持等）
- 目標4 市民・各種団体・行政との連携活動の継続（利用促進協議会の活用等）
- 目標5 シティプロモーション活動等の積極展開（自社メディアの活用等）

「岳南電車庁内連携支援会議（令和6年4月26日開催）」において、令和5年度の岳南電車行動計画における個別指標の実績値等について確認した。この結果を「令和6年度第1回富士市公共交通協議会（令和6年5月30日開催）」において報告し、着実に履行されていることが承認された。

### 庁内横断的な岳南電車への支援

岳南電車庁内連携支援会議<sup>※</sup>／構成員 ※令和5年4月に市の関係課で組織した会議

種別	所属部課名	
座長	都市整備部都市計画課長	
委員	総務部シティプロモーション課職員	産業交流部交流観光課職員
	福祉部福祉総務課 //	教育委員会学校教育課 //
	市民部市民安全課 //	教育委員会文化財課 //
	産業交流部商業労政課 //	富士市立高等学校 //
鉄道事業者	岳南電車株式会社	



岳南電車の活性化のほか、都市の魅力や活力の向上を図るため、観光やシティプロモーションの推進にあたり、庁内関係課と連携した取組を推進している。



# 岳南電車 第四次（R5～R9）行動計画（案）

岳南電車株式会社

令和5年4月1日

令和6年10月17日改訂

## 岳南電車5カ年（R5～R9）行動計画

富士市から次の5カ年の公的支援を受けるにあたり、地域・社会への信頼とこの行動計画を常に企業経営の念頭におきながら、お客様への安全性、利便性、快適性の継続を実行するとともに、社会基盤である公共交通の役割だけでなく、富士市観光周遊の促進、加えて富士市の魅力を全国に向けて発信するシティプロモーション活動の象徴的な役割を担う地域共生型のサービス企業をめざします。

### 5つの目標

- ・ 目標1 市民の足としての利用促進施策の継続
- ・ 目標2 観光利用施策による地域社会との共存共栄
- ・ 目標3 安全第一の経営方針と経営努力の継続
- ・ 目標4 市民・各種団体・行政との連携活動の継続
- ・ 目標5 シティプロモーション活動等の積極展開

この行動計画を推進することで、これからも末永く市民・利用者の皆様に愛される岳南電車の基礎を築いてまいります。また、新たに導入される「モニタリング制度」では、当社独自のセルフモニタリングや行政や第三者機関によるモニタリングを通じて、この行動計画の各種進捗状況の確認を行い、確実な計画履行を目指します。なお、経営環境や利用実態等の変化に応じ関係者と協議の上、必要な見直しを行い、状況に即したフレキシブルな運用を進めてまいります。

## 岳南電車5カ年行動計画5つの目標

### ・目標1 市民の足としての利用促進施策の継続

全国的な少子化や人口減少の中、富士市においても人口減少が続いている。学生の公共交通離れに加え企業の流出など周辺環境の変化による岳南鉄道線の利用者減少傾向の中、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限や外出自粛、マイカーや自転車などへのシフトが顕著となった。コロナ前から営業施策による電車のレジャー用途化や市民の支援活動により、順調に回復傾向になった矢先の大きな利用者減少となり、約3年経過した現在も影響が残る。しかし、今後のアフターコロナを見据え、交通弱者の増加や環境負荷の影響を考えると鉄道の必要性は今後も高まっていくと考えられる。市民にその必要性を認識していただき、富士市の公共交通ネットワークの一つとして、今後も岳南鉄道線をより身近に感じられる活動を継続発展していく。

そのための具体的な取組み案として、「環境にやさしい電車」を切り口として

- ① 企業、行政機関などへ「電車通勤の促進運動」
- ② 教育委員会、学校への「電車通学の促進運動」
- ③ 市民への「日常生活での電車利用促進運動」                      などの呼びかけを行っていく。

### ・目標2 観光利用施策による地域社会との共存共栄

富士山の世界文化遺産登録（平成25年）に続き、岳南電車は翌年全国で初めて鉄道施設全体での「日本夜景遺産」に認定、また平成29年には「日本百名月の地」に選定された。令和3年には、岳南富士岡駅に「がくてつ機関車ひろば」を整備。令和4年には、「本吉原駅」のホームと上屋が国登録有形文化財に登録された。沿線には、田子の浦港や毘沙門天、東海道吉原宿、須津川溪谷、かぐや姫伝説発祥の地など観光資源を有している。これらの観光資源と地域の文化歴史など多様な地産資源を活用し、国内外からの誘客を促進することで地域社会との共存共栄を目指す。

具体的には、岳南電車を活用したイベントの開催を通じ、静岡県及び周辺市町、他社地方鉄道との連携、各種メディアへの露出を通じ、観光需要の取り込みを図る。

（各種催事の年次計画を策定し、計画に基づき実施予定）

### **・目標3 安全第一の経営方針と経営努力の継続**

輸送の安全確保はすべてに優先する絶対要件である。そのため、常にすべての設備と施設の監視を行い、長期的な視野に立った安全マネジメントを醸成するとともに、今後も設備更新や修繕投資を継続し鉄道輸送の安全対策に万全を期していく。また将来必要となる電車車両の更新など大型設備更新については、行政と協議し準備を進める。

さらに将来長きにわたり岳南電車を支えていく人材の育成・ノウハウの継承を進めながらも、合理的かつ効率的なコストコントロール経営を継続する。

### **・目標4 市民・各種団体・行政との連携活動の継続**

市民、各種団体、行政、事業者が連携した「協議会」「意見交換会」を開催し、利用者に寄り添い、各種イベントや啓蒙活動を通じた利用促進を図る。また地域に愛される企業として、サポーターやボランティア団体などの地域住民や沿線企業と連携して活動の輪を広げ、社会貢献活動にも積極的に取り組む。

### **・目標5 シティプロモーション活動等の積極展開**

市民、各種団体、行政、事業者等が行う事業や催事には、会社を挙げて全面協力しながら、岳南電車は富士市において「重要な社会基盤」であり、「貴重な観光資源」「富士市シティプロモーション大使」であることへの理解度を深めるため、パブリシティの獲得やウェブサイト、ソーシャルメディアを活用し、情報発信の中心的な役割を果たしていく。

## 【目標1】 市民の足としての利用促進施策の継続

### (1) 日常の利用拡大に向けた利用促進策

#### ① ダイヤの改善

通勤・通学を中心とした日常生活における利用拡大のため、終電時刻の繰り下げや所要時間短縮等のダイヤ改善に取り組んで来たが、加えてお客様アンケート調査によるご意見を反映したダイヤの見直し、またイベント時での電車の増発など、一層便利に利用していただく努力を継続する。

[内容]

- 1) お客様アンケート調査によるご意見の集約と検討
- 2) ダイヤ改善
  - ・ J R との乗継利便性向上を一層配慮したダイヤの検討
- 3) 増発対応
  - ・ 毘沙門天祭り、吉原祇園祭などの多客時での増発、増結便の運行
- 4) 電車通勤・電車通学の啓発事業
  - ・ 沿線企業や学校等に電車利用奨励の企業学校訪問

【指標】

- 1) お客様アンケートの実施 1回/年
- 2) ダイヤ改正検討 1回/年
- 3) 増発対応 2回/年（毘沙門天大祭、吉原祇園祭）

#### ② 定期利用者の拡大

パーク&ライド駐車場の利用促進継続や電車利用の拡大につながるポケット時刻表の増刷、スマホ定期券アプリの導入などにより定期券利用者の拡大につなげる。

[内容]

- 1) パーク&ライド駐車場の利用促進
  - ・ パーク&ライド駐車場を継続して推進し、定期券利用者の拡大を目指す。
- 2) ポケット時刻表の配布
  - ・ 富士市への誘客を兼ねた（富士市と連携した観光宣伝写真掲載）ポケット時刻表の作成・配布も行う。
- 3) DX（デジタルトランスフォーメーション）への対応
  - ・ スマホアプリを活用した定期券をオンライン決済により販売することで、定期券購入の利便性向上と駅出札の業務効率化を図る。

【指標】

1) 目標定期利用者数達成 下表のとおり

項目	第3クール					第4クール目標(人)				
	H30 (実績)	R1 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (目標)	R6 (目標)	R7 (目標)	R8 (目標)	R9 (目標)
定期利用者	381,060	335,190	313,780	346,560	337,680	350,919	350,760	371,856	371,412	371,992
(通勤)	272,340	223,170	236,200	259,380	257,820	249,275	249,275	292,193	292,220	292,800
(通学)	108,720	112,020	77,580	87,180	79,860	101,644	101,485	79,663	79,192	79,192

2) ポケット時刻表配布 1回/年

3) 利便性向上に向けたDX推進 キャッシュレス化・Maas 検討推進

③ 定期外利用者の拡大

高齢者などに向け、より利便性を高める施策や利用促進策を拡大する。

1) 通院・買い物利用者や高齢者の利便性を高めるため

- ・富士市内コミュニティ交通共通回数券の利用受入れ
- ・免許証返納者用富士市内公共交通共通回数券の利用受入れ
- ・シルバー回数券の継続（行政との調整要）
- ・駅別時刻表の継続・配布を行う。

2) 各種イベント列車や貸切電車の拡大

- ・これまで取り組んで来た「夜景電車」「ビール電車」「ジャズ電車」「ワイン電車」などに加えて地元のグルメや事業者との連携による電車を運行する。

【指標】

1) 目標定期外利用者数達成 下表のとおり

項目	第3クール					第4クール目標(人)				
	H30 (実績)	R1 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (目標)	R6 (目標)	R7 (目標)	R8 (目標)	R9 (目標)
定期外	485,181	479,639	314,114	346,549	379,543	360,246	371,050	398,496	413,149	428,068

2) 富士市内共通回数券の利用受入 120千円/年

3) 免許返納者用共通回数券の利用受入 150千円/年

4) 駅別時刻表配布 1回/年

5) イベント電車等催行・開催告知 12回/年

④ 将来の利用者・支援者の育成

地元鉄道の公共交通としての必要性和役割並びに電車の安全な乗り方、ワンマン電車への不安解消のための活動を強化する。

[内容]

1) 沿線の幼稚園や小中学校に加え沿線外学校も取り込んだ電車教室の充実

- ・電車の乗り方教室、電車の構造教室などの開催を拡大する。
- 2) 幼稚園児・学生の絵画（岳南電車を題材とした絵画を募集）の車両内展示
  - ・車内展示が可能なことを告知し、市内の幼稚園・小学校への展示場として活用する。

**【指標】**

- 1) 乗り方教室、見学会等実施      4回／年
- 2) 絵画・写真コンテスト等実施      1回／年

(2) 利用促進のための環境整備

① 車両、トイレ、駐輪場などの美化整備

車両、トイレの美化や駐輪場の整備を行い、お客様の利用促進のための環境整備への取り組みを推進する。

[内容]

- 1) 車両の美化と輸送力の強化
  - 定期的に車両の外板・窓・床等の重点清掃を行う。
  - また1両編成車両を2両編成車両に更新して輸送力の強化を図る。
- 2) 既設トイレのリニューアル
  - 利用者の多い吉原駅などのトイレを清潔で利用しやすいトイレに改修し、利用環境の改善に努める。
- 3) 駐輪場の整備
  - 現在（平成29年度時点）10駅の内、8駅まで設置が進んでいるが、次の5か年の中で岳南江尾駅への駐輪場整備の検討を進める。

**【指標】**

- 1) 安心してご利用いただける感染症拡大防止対策
- 2) 駅施設（トイレ、駐輪場）改善    計画に則り1年に1駅

② お客様のご意見集約の強化

お客様の気付いた点や要望などを受け付け、より利用し易い環境整備に努める。

[内容]

- 1) お客様相談窓口の継続
  - ・相談窓口として専用ウェブフォームの整備
- 2) お客様アンケートの継続
  - ・定期的にお客様へのアンケート調査を行い、ダイヤ改正、施設管理等の改

善を継続する。

3) お客様ご意見箱の設置

- ・ 有人駅へのご意見箱設置を行い、ご意見の集約に努める。

**【指標】**

- 1) お客様相談ご意見窓口の継続・改善 1回/月 全社会議で検証
- 2) お客様アンケートの実施 1回/年

③ CS向上

お客様満足度 (Customer Satisfaction) の向上と徹底を目指して下記のような取組を行ってゆく。

[内容]

- 1) グループで取組んでいるCS向上活動への参加によるレベルアップ
  - ・ CS教育への参加によるCSレベルの向上
  - ・ ミステリーショッパー (覆面調査) によるCSレベルの評価、指導
  - ・ CSリーダーの定期的富士急行本社での教育指導
- 2) 岳南電車が単独に取組んでいるCS活動の継続
  - ・ 外部講師によるCS教育の継続実施
  - ・ 定期的なCS向上運動の実施

**【指標】**

- 1) 富士急グループCS教育への参加 1回/年
- 2) サービスクオリティの確認・改善 1回/月 全社会議で検証

## 【目標2】 観光利用施策による地域社会との共存共栄

### (1) 誘致活動の強化・案内充実

#### ① 誘致活動の強化

市外・国内外や沿線外からの誘致活動を強化するため、沿線の魅力や観光情報を積極的に発信し、旅行代理店などへの積極的な販促活動やW e bサイトの充実を図る。

[内容]

##### 1) 旅行代理店等へのセールス強化

- ・富士山観光交流ビューローと連携して旅行代理店等への岳南電車を組み入れた旅行商品の造成の働きかけやインバウンド誘致を強化  
(パワースポット、運転席体験、機関車見学、工場夜景 等)
- ・各所で実施される観光商談会への積極的な参加

##### 2) W e bサイトの充実

- ・イベント情報の提供やブログの活用等によるインターネットを通じた情報発信の強化
- ・SNS (ソーシャルメディア) の流行を取り込んだ情報の発信
- ・国外へのW e b発信の取組み

##### 3) 静岡県観光協会及び周辺市町の観光部署、更には鉄道同業者との団結や連携を図ってP Rを行う。

#### 【指標】

- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| 1) 旅行代理店や観光関連団体等P R | 2回/年        |
| 2) 商談会等イベントへの出店     | 2回/年        |
| 3) 自社実施イベントへの集客     | 1, 0 0 0人/年 |

#### ② 駅や車内における案内の充実

観光客等の不案内な旅客の利便性向上のため、主要駅において接続する交通手段の案内、アテンダントの乗務や外国語案内標記の充実等に取り組む。

[内容]

##### 1) 主要駅における接続バス路線・時刻表の掲出

- ・吉原本町駅や岳南原田駅等の主要駅での乗り継ぎバス路線・時刻表の掲出

##### 2) 電車アテンダントの乗務および機能強化

- ・イベント開催時を中心に電車アテンダントが乗務し、乗降のサポートや観光案内等の実施を検討

- ・車内におけるグッズ販売、観光案内のレベルアップや接遇向上等による機能強化の推進を検討
- 3) 駅における観光案内の強化
  - ・吉原駅や吉原本町駅等、観光客の多い駅における観光案内の強化  
(観光パンフの充実、手作りハイキングコースパンフ、パンフレットホルダーの設置、駅員の観光案内サービスの向上)
- 4) 外国語案内表記等海外観光客対応の強化
  - ・駅名標等の外国語案内表記改善の推進
  - ・ユニバーサルデザインのサイン看板の導入を検討
  - ・手回り品の一時預かりなど「手ぶら観光」の推進

#### 【指標】

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1) 周辺観光情報の紹介展示  | 各駅に設置             |
| 2) 多客時の保安乗務、ガイド | イベント・多客の都度        |
| 3) 掲示物の多言語化推進   | 多言語表示対応 (R7 整備完了) |

## (2) イベント・企画電車等の開催

### ① 沿線イベントの企画・開催

沿線施設・地域への集客のため、自社企画イベントや市及び関係団体と連携したイベントの開催、市内・沿線で開催される地元イベントと連携していく。

[内容]

- 1) 自社企画イベントの開催
  - ・「満月・名月イベント」「夜景イベント」を開催し地域への集客と利用者拡大を図る。定例実施の「夜景電車」をPRの軸としてセールスに活用
  - ・新たなイベントの創出。
- 2) 地元の名所、旧跡、観光スポット、地元の食の話題店などを盛り込んだハイキングコースマップを作成し、電車利用の目的・機能強化を図る。
- 3) 沿線の神社仏閣などと旧跡を案内する御朱印散歩など、沿線の魅力を感じる新たな需要喚起により観光目的地化を図る。
- 4) 旅行会社とのタイアップによりツアー客を誘致し、駅及び職員の案内を通じて富士市並びに沿線の魅力を紹介しリピーター獲得を図る。
- 5) 沿線で開催されるイベントとのタイアップ

**【指標】**

1) 自社企画イベント 4回/年

2) 沿線ウォーキングマップ作製 1回/年

3) 沿線イベント連携 3回/年

※富士山女子駅伝、吉原祇園祭等、毘沙門天大祭等

② イベント列車の企画・運行

岳南電車自体を観光誘客の目的とするイベント電車を運行する。

また電車のラッピング装飾などにより話題性を提供する。

[内容]

1) イベント列車の企画・運行

・ラッピング電車

・音楽活動の電車

・婚活電車

・ワイン電車 他

**【指標】**

1) イベント電車の企画運行 4回/月 (夜景電車、運転体験等)

2) ラッピング装飾等 1回/シーズン

③ アテンダントの充実

色々なイベント列車での車内アテンダントを育成し、イベント列車の魅力を高めて県外からの誘客に努める。

**【指標】**

1) 夜景観光士資格保持者 毎年2人増加/年 ※現在4名

### (3) 岳南電車および沿線のイメージアップ

#### ① 駅の機能強化

駅を中心とした賑わいの創出や沿線全体のイメージアップのため、地域の拠点としての駅機能の強化と、駅自体の魅力向上を図る。

[内容]

1) 岳南富士岡駅「がくてつ機関車ひろば」の有効活用・イベントの拠点化

2) 吉原本町駅の「街の駅」スペースの有効活用

展示のリニューアルを行い、岳鉄歴史資料館としての機能を上げて、集客の一つの目玉として有効活用を図る。

※ 資料収集、展示方法などを各種支援団体とも相談し協力を頂くことにより連携を図ることも一つの目的と考える。

3) 駅前広場でマルシェ・フリーマーケットの開催

4) 駅待合室を高齢者の活動拠点（憩いの場）とする。

【指標】

1) 「がくてつ機関車ひろば」でのイベント・ツアー誘客等

2) 吉原本町駅「まちの駅」の展示リニューアル

3) 駅待合スペースの機能強化（周辺観光案内の拠点化）

#### ② 魅力ある観光地のPR

富士市や関係団体と連携し、田子の浦港や毘沙門天、東海道吉原宿、須津川溪谷など多くの観光資源と地域の文化や歴史、食に係る多様な地産資源を活用した観光PRを行う。

【指標】

1) コラボPR企画 2回/年

### (4) 魅力あるお土産グッズの商品拡充

新規商品の開発

鉄道関連グッズ、岳南電車オリジナルグッズを企画販売し、話題性の向上によるイメージアップと利用促進、付帯収入の拡大を図る。

【指標】

1) 新規オリジナルグッズ企画販売 3品目/四半期

例 鉄道ファン向け商品、周年事業記念商品、食品、スイーツ等

### **【目標3】 安全第一の経営方針と経営努力の継続**

近年、交通事業者による事故、脱線等に加え、テロ等重大事故が続発しているが、当社においては、長年運転事故ゼロを継続している。今後も管理体制の維持向上と鉄道施設の点検・修理・更新に万全を期して、事故防止を徹底する。

#### (1) 安全管理体制の維持

##### **【指標】**

- 1) 運輸安全マネジメントによる安全基本方針（行動規範）に従い、定期的な安全推進会議や経営トップによる現場巡視など活動を推進する。
- 2) 安全管理体制維持のため、経営管理部門を含めた全社による運輸安全マネジメント内部監査を実施する。

#### (2) 安全な鉄道施設の維持

国、県などの安全対策補助を活用し、経済的で効率的な線路・電路・車両の安全対策を行う。

##### **【指標】**

- 1) 計画的な鉄道施設の維持管理のため、鉄道整備の中長期計画を策定し、それに基づき計画的な設備・修繕工事を実施する。
- 2) 電車車両や駅連動設備の大型設備更新にかかわる大型投資については、行政と密に連携し、その導入の判断を行う。

#### (3) 低コスト経営の継続

合理的効率的な経営を継続強化する。

##### **【指標】**

- 1) 行動計画実行に向けた適切な人員の配置と確保
- 2) 安定した鉄道運行に加え、イベント企画・実施等マルチ化の推進
- 3) 付帯事業の拡充（物販、イベント、貸切運転等）による収益改善

## **【目標4】 市民・各種団体・行政との連携活動の継続**

- (1) 岳南電車の「利用促進協議会」の活用  
「地域」「各種団体」「行政」「事業者」が連携し岳南電車の利用促進を考え話し合う「岳南電車利用促進協議会」をさらに活用する。1回／四半期
  
- (2) 潜在的な利用者への働きかけ  
潜在的な利用者でありながら、未だに利用したことがない近隣の市民や、周辺観光する外国人観光客に、岳南電車の魅力や市内観光施設を周知させ、電車の利用促進と観光需要の発生を図る。  
**【指標】**
  - 1) 鉄道の地域資源としての活用（沿線施設の目的地化）
  - 2) 海外（外国人観光客）へ向けた情報発信
  
- (3) 各種支援団体との連携強化  
下記の支援団体等と緊密に連携し、事業の改善や支援活動の方針などを協議する他、支援団体間の連携を深めるためその中心としての役割を果たす。  
・岳鉄イカシ隊、・岳鉄サポーターズクラブ、・フジパク、他
  
- (4) 社会貢献活動への積極的な取り組み  
地域交通を担う鉄道事業者としての社会的使命を果たすため、地域活動や環境活動、社会貢献活動に積極的に取り組むほか、環境負荷の少ない鉄道事業の利用促進を通じサステナブルな事業展開を充実させる。  
**【指標】**
  - 1) 沿線地域活動への参加（地元清掃活動、地元行事等）
  - 2) 環境活動（富士市SDGs未来都市推進企業としての役割）
  
- (5) 鉄道安定運行に向けた課題の検討  
今後将来にわたり、安定的な地方鉄道の存続に向け、地方鉄道事業者他社と緊密な連携・情報交換を通じ、一層市民に選ばれ存続できる地方鉄道経営を推進する他、行政と緊密に電車の利用状況、経営上の課題、行動計画の進捗等の情報交換を行い、行動計画に示す施策が確実に実行されるようPDCAサイクルを構築する。

## 【目標5】 シティプロモーション活動等の積極展開

岳南電車は、令和4年11月、法人としては初めて「富士市シティプロモーション大使」に任命された。今後も積極的に市民、各種団体、行政、事業者等が行う事業や催事に全面協力し、岳南電車の富士市における「重要な社会基盤」であり、「貴重な観光資源」「富士市シティプロモーション大使」であることへの理解度を深めるため、情報発信の中心的役割を果たしていく。

### (1) 自社メディアの活用

自社のウェブサイトに加え、ソーシャルメディアを活用した情報発信の割合が年々増加し、特に Twitter は多くのフォロワーを抱える重要な発信ツールに成長した。安心安全な運行にかかわる発信に加え、営業施策や物販関連、沿線周辺情報や富士市全般にかかわる観光情報や富士市の魅力など幅広く、適時性があり、かつ岳南電車を身近に感じていただける積極的なメディア運営を進める。

#### 【指標】

1) ウェブサイトPV 下表のとおり

項目	第3クール	第4クール目標(回)				
	R4 (実績)	R5 (目標)	R6 (目標)	R7 (目標)	R8 (目標)	R9 (目標)
ウェブPV	780,000	800,000	—	—	—	—
セッション数	—	—	252,000	262,000	273,000	282,000

2) ウェブサイト情報更新 2回/月

3) SNS 情報発信 月平均50回程度

### (2) 富士市の魅力PR、イメージアップ

岳南電車のホームタウンである富士市の魅力をPRするために、沿線の地域資源を紹介したパンフレットやマップの作製、旅行専門誌などで発行する観光ガイドへの掲載等を行う。

#### 【指標】

1) 観光パンフレット、沿線マップ等の作成 2回/年

2) 旅行専門誌、ガイド本などへの掲載 5回/年

3) 市関連ポスターの掲載 8種類/年

- 4) ツアー商品等造成タイアップ等 50回設定/年
- (3) パブリシティの獲得強化

当社の取組や営業施策をマスコミへリリースし、パブリシティ獲得を図る。

**【指標】**

- 1) 各種施策に関するリリース回数 1回以上/月
- 2) 他団体等との連携によるリリース 2回以上/年

**行動計画の進捗を総合的に検証する指標**

行動計画及び個別指標を達成することにより、下表の利用者数の達成を図ります。

項目	第3クール					第4クール目標(人)				
	H30 (実績)	R1 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (目標)	R6 (目標)	R7 (目標)	R8 (目標)	R9 (目標)
利用者数	866,241	814,829	627,894	693,109	717,223	711,165	721,810	770,352	784,561	800,060

また、鉄道事業、地域公共交通を取り巻く経営環境の変化にも対応すべく、利便増進に向け、積極的にDX推進を進めてまいります。

以 上